

# 事業の概要

事業名	街路事業		路線名	筑豊広域都市計画道路 3・4・36-4 下老良植木線			県道名	主要地方道 直方芦屋線	
起終点	自：直方市知古 至：直方市下新入		整備方式	現道拡幅					
延長	800m	現況	幅員	8.1m	車線数	2	交通量	12,214 台/日 【R5.2 観測：24 時間観測】	
		計画	幅員	16.0m	車線数	2		10,400 台/日 (R22 推計) 【第4種第1級】	
全体事業費	約 23 億円		事業年度	R5 年度～R14 年度			B/C	1.1	

## 1) 路線の概要

都市計画道路下老良植木線は、遠賀川西部地区の鞍手・中間方面へ結ぶ主要地方道直方芦屋線と重複し、直方市殿町の一般国道 200 号から、JR 直方駅等が立地する同市内の中心市街地を経由し、直方市植木に至る延長約 5.58km の南北軸の主要な幹線道路である。

本路線沿線には、商業施設をはじめ、鉄道駅、バス停などの交通結節点や小中学校などの教育施設が多数立地しており、地域の産業や住民の生活を支える重要な機能を担っている。

## 2) 事業の必要性

### ①都市骨格と高密度な市街地形成の支援

「都市計画道路下老良植木線」は、直方市都市計画マスタープランにおいて、近隣都市との広域的な連携を図る役割や、都市骨格軸として地域間連携を担う役割を持つ主要幹線道路として位置づけられている。

また、当該事業区間周辺の地域は、直方市立地適正化計画において、駅周辺の利便性が特に高く、都市機能等が集積する地区である生活拠点として位置づけられており、都市機能・居住誘導区域が設定されている。

しかしながら当該事業区間は、直方市の上位計画において基幹的な役割を担う道路という位置づけであるが、現道は全幅が狭隘であり、歩道が未整備の区間があることから、恒常的に混雑が発生している。

### ②産業活動の支援

当該事業区間周辺は、九州縦貫自動車道鞍手 IC へのアクセス道路となっており、明神池工業団地をはじめとする工業団地が点在している。しかし、当該事業区間の現道における交差点部には右折レーンがないことから、特に朝夕の混雑が著しく、物流の定時性を阻害している。直方市における産業活動を支える路線として当該事業区間の整備を図る必要がある。

### ③歩行者ネットワークの確保

当該事業区間周辺は、商業施設をはじめ、鉄道駅・バス停などの交通結節点や小中学校などの教育施設が多数立地している。しかし、歩道が未整備な区間や狭隘な区間があるため、歩行者・自転車における交通流動の連続性や安全で円滑な通行に支障をきたしている。【歩行者交通量：214 人/12h・自転車交通量：143 台/12h】

## 3) 事業により期待される効果

### ①都市骨格と高密度な市街地形成の支援

当該事業区間及び隣接する天神橋工区を併せて整備することで、主要幹線道路及び生活拠点としての機能の向上が図られ、都市骨格と高密度な市街地の形成に寄与する。また、整備により混雑が緩和され、(それにより沿道商業施設へのアクセスも容易になり、) 周辺住民の生活利便性が向上する。【混雑度：1.37→1.10】

### ②産業活動の支援

当該事業区間の整備により、明神池団地など周辺に点在する工業団地から九州自動車道鞍手 IC へのアクセス性が向上し、直方市における産業活動を支える路線として、製造業をはじめとする地域の産業活動を支援することができる。

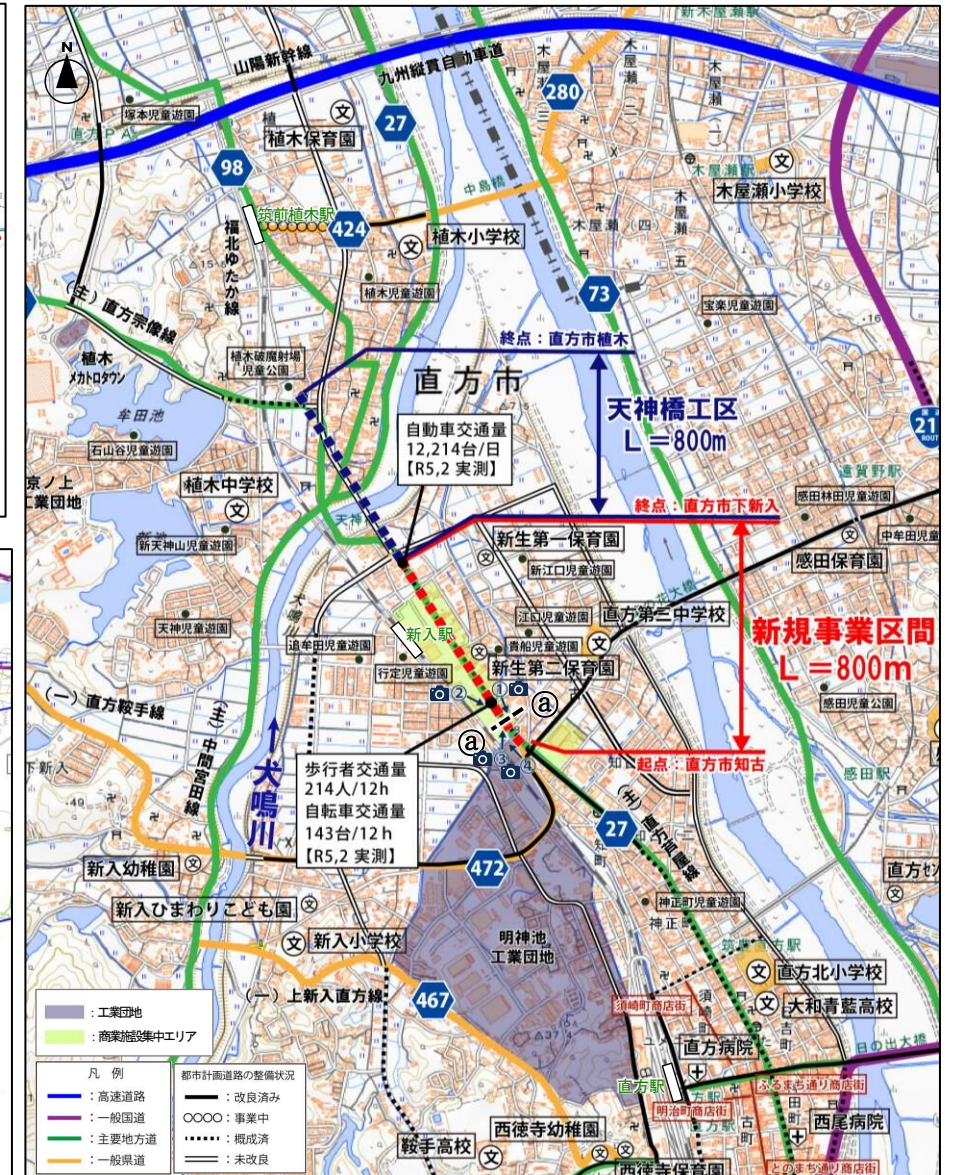
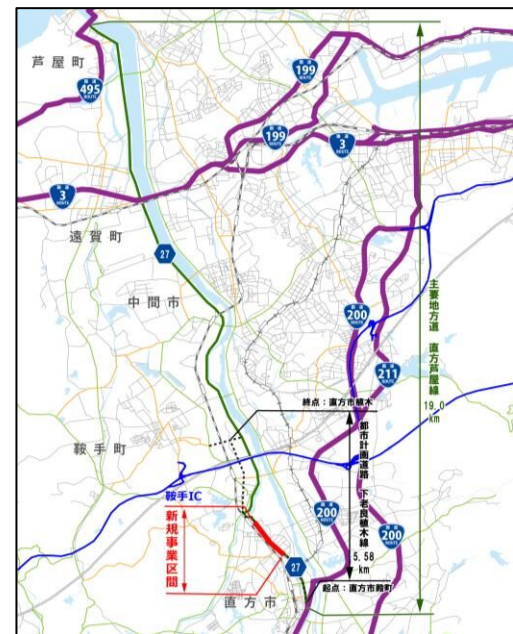
### ③歩行者ネットワークの確保

歩道や自転車通行帯が整備されることにより、歩道の連続性が確保され、買い物客や通学生徒等の地域住民の安全・安心な生活、円滑な通行の確保に寄与する。

関連事業 (主) 直方芦屋線(天神橋工区)の整備 事業期間：令和4年度～令和13年度(予定)

## 要望状況

・直方市(R1-R4)、新入校区自治区公民館連合(R1)・植木校区自治区公民館連合(R1)より早期整備を要望されている。



写真①：下老良植木線における歩道未整備区間



写真②：狭隘な歩道を通過する歩行者・自転車

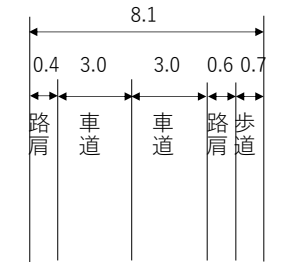


写真③：下老良植木線における乱横断者



写真④：下老良植木線の混雑状況

① - ① 断面 (現道：一般部)



① - ① 断面 (計画：一般部)

